

JJA Newsletter for Next Uro-Generation

甲信越地区

医学生・初期研修医のための泌尿器科Newsletter

はじめに

私は山梨大学泌尿器科に所属し、大学病院で勤務している卒業五年目の医師です。卒業も初期研修も同大学でしたので、学生時代から知っている先生方のもと、充実した後期研修の日々を過ごしています。

私の毎日

外来が週一日、外勤（外来）が週一日、手術日が週二日、その他が週一日です。その他の日は、前立腺生検や外来や手術など、何かしらやっている感じです。外来や手術をはじめ、全てにおいて知識も経験も不足してきますので、準備に時間が掛かります。基本的には早め起きて、教科書や論文を読んだり、動画を見たり、自分の時間を確保します。夜は弱いので、先輩が残っていても、そこそこの時間で帰宅します。週末は普段の怠けた代償として、残務を片付けます。毎週やってくる修練の場であるカンファレンスに関しては、以下の通り

です。毎週水曜日の夜、泌尿器科カンファレンス（入院、外来患者、手術予定患者）、病理カンファレンスがあります。月に一、二回、月、木曜日の夜に放射線科との合同カンファレンスがあり、放射線治療患者などの検討を行っています。各先生方の笑顔のつこみに、不感症になりそうです。また、毎週水曜日の午前七時から朝食付きの若手向けジャーナルクラブ（興味ある論文に関するプレゼンテーション）があり、研修医、若手医師と武田教授が参加しています。多忙な教授と日常会話ができる貴重な時間になっています。

私が泌尿器科を選んだ理由

山梨大学 青木 正

で出てこない感じですが、泌尿器科カンファレンス（入院、外来患者、手術予定患者）、病理カンファレンスがあります。月に一、二回、月、木曜日の夜に放射線科との合同カンファレンスがあり、放射線治療患者などの検討を行っています。各先生方の笑顔のつこみに、不感症になりそうです。また、毎週水曜日の午前七時から朝食付きの若手向けジャーナルクラブ（興味ある論文に関するプレゼンテーション）があり、研修医、若手医師と武田教授が参加しています。多忙な教授と日常会話ができる貴重な時間になっています。

泌尿器科を選んだ理由
恥ずかしながら、医学部に入る前は泌尿器科を意識したことはありませんでした。標榜科を順にあげて行っても、最後まで

手術に臨み、術中も冷や汗をかき、手術を終えた時の充実感というか脱力感というか、他では決して経験出来ません（周囲の先輩方はもつと緊張し、冷や冷やしていると思われませんが・・・）。

山梨大学の特色

他の大学の状況は分かりませんが、『こんなやりさせてもらえるのか』と言うのが率直な感想です。外来で自分が初診をすれば、前立腺全摘除術（開腹もロボットも）、腎摘出術（開腹も腹腔鏡も）、膀胱全摘除術もすべて全てで執刀医になれます。これって凄い事だと思って、個人的にはとても有難いと思っています。術者をやると助手の動きがわかるし、自分が助手のとき、怒られていた理由がわかります。カメラ持ちも同様です。また、周術期管理、トラブルへの対処、他の先生の手術など、勉強すべきことが明確になります。

親睦イベント

歓迎宴会、納涼会、忘年会などオフィシャルな



もの以外に、病棟グループ結成会・解散会、突発的な企画による親睦の場は事欠きません（もちろん無理強いはありません）。ゴルフ部、マージャン部、登山部、釣り部、ランニング部等も不定期で活動中です。飲みニケーションではありませんが、個人的には仕事外での付き合いも重要と考えています。

自分の将来

模索中です。細かい事情は省きますが、現在三十八歳、妻一人、



この四月に産まれたばかりの双子がいます。総合的に考えなければなりません。自分の性格も能力も体力もある程度、把握しています。目標としたい先生は大学内外にいらっしゃると思いますが、『あなたはその器じゃないし、柄でもないよ』との妻の言葉も妙に納得です。希望に満ち溢れた将来ではありませんが、日常業務をこなし、家族を養いつつ、まずは専門医取得、その後、夢中になれる仕事に出会えたらと考えています。

私の毎日

私は現在、信州大学医学部附属病院の泌尿器科に勤務しながら、大学院に在籍し、臨床の診療をしながら基礎研究に日々勤しんでいます。週二日

病院で行っています。外来診療は頻尿・排尿困難・尿路感染症から悪性腫瘍と多岐に渡ります。泌尿器科の外来はどこも多忙を極めていますが、そのような中でも一人一人の患者さんの声をしっかりと聞き、説明の時間を取るようにしています。手術は週二日、大学病院で行っています。開腹手術では下大静脈まで届く腫瘍塞栓の腎癌、大きな副腎褐色細胞腫、膀胱全摘除術等の大きい手術、そして腹腔鏡手術まで執刀させていただいています。大学病院ならではの手術を経験し、外科医としての技量を向上すべく日々努力中です。そして大学院生なので余った時間は全て実験に充てています。現在はラットを使用した

排尿障害の実験を行っており、空いている時間は飼っているラットへの餌やり、ラットの手術、データ解析、そして学会発表や論文作成に充てています。

泌尿器科を選んだ理由

元々、消化器外科医を志望していたのですが、大学で在籍していたスキー部の顧問でいらつしやつた先代の教授、西澤理先生に腎移植の魅力を教えていただき、腎移植がやりたいという理由で泌尿器科医になることを決めました。当院では腎移植は決して多くはないのですが、学生の飲み会の席で「うちに入局したら、うちの腎移植は全てやらせてあげるよ!」という西澤先生一言で母校への入局を決めたという記憶があります。また医師になるにあたり、何か特別な

私が泌尿器科を選んだ理由

信州大学 齋藤 徹一

専門性を持ちたいという思いがありました。漠然と内科系・外科系というよりは、その科でなければできない処置がたくさんあるという医師になりたいというイメージが学生時代からあり、泌尿器科というのはその点においても

泌尿器科の魅力

はまったというのがあります。多くの学生の方に聞かれるのですが、泌尿器科の魅力はサブスペシャリティが多岐にわたるということだと思います。腎移植、悪性腫瘍、頻尿、女性泌尿器科、小児泌尿器科、尿路結石、男性性機能等々、泌尿器科に入ってからその先の選択肢が多いというのが魅力だと思います。また自分達で診断を行い、治療を行うというののも大きな魅力だと思えます。また自分達の深い経過観察や補助治療も全て自分達で行うというののも大きな魅力だと思えます。

力だと思えます。泌尿器科手術の魅力はそのダイナミックさにあると思えます。骨盤や後腹膜の手が入らないくらい深い所に指を押し入れて糸を結紮したり、時には大量の出血の中での手術を経験したりと日々汗をかきながら手術を行っております。また内視鏡手術も多岐にわたる、悪性腫瘍からレーザーを使用した手術、そして何と言ってもダヴィンチ手術が今の泌尿器科の大きな魅力です。自分はまだダヴィンチ手術の助手しか務めていませんが、早く執刀できる日が来るのが楽しみです。かたがたありません。

信州大学医学部泌尿器科について

信州大学泌尿器科には現在、医師が教授を含め十三人で仕事をしております。非専門医が四名在籍しており、若い風を医局に吹き込んでくれています。



2016年度医局旅行の集合写真。左上で子供を抱っこしているのが筆者。下段中央が石塚教授。この後26時まで夜の宴は続いた...

ます。手術は積極的に若手に執刀をさせてくれるので、大学に所属しながらも症例の経験を積むことが可能であり、また関連病院に出ることですらなる修行を積むこともできます。当科は伝統的に多彩な排尿関連の話題が舞い込んできます。もちろん悪性腫瘍など、他の領域の仕事も盛りだくさんです。一番の魅力は最近若い先生が増えた

事だと思えます。学生・研修医・病棟看護師を交えた飲み会、医局旅行等のイベントが盛りだくさんであり、年末恒例の温泉旅館での大忘年会の若手の余興は毎年目を見張るものがあります。また上級医も優しい酒豪な先生が多いので、飲みに行くと高確率でおごつてもらえるという嬉しいことでもあります。

日々の苦勞

日常診療の苦勞はもちろんです。最近は大大学院での実験が一番の苦勞です。先輩の先生に指導いただきながら必死にラットと格闘している日々です。最初の頃は恐怖心から、ラットに触ると手が震るということがあります。でも

日常診療の苦勞はもちろんです。最近は大大学院での実験が一番の苦勞です。先輩の先生に指導いただきながら必死にラットと格闘している日々です。最初の頃は恐怖心から、ラットに触ると手が震るということがあります。でも

最後に

泌尿器科を選択して八年目になりますが、後悔したことは一度もありません。むしろその魅力にドロ沼のようにズブズブとはまっている自分がいえます。一歩足を踏み入れれば必ずや皆さんも夢中になれる仕事だと思えます。職場や学会で皆さんとお会いできる日を楽しみにしています!



根治的前立腺全摘除術の執刀医として

私は現在、新潟大学泌尿器科の後期研修医三年目として新潟県内の総合病院に勤務しております。日々、外来・病棟と手術に追われながら診療を行っています。ですが、少しずつ自分で判断したり手術を最後まで任せられる場面が多くなり、自身の成長を実感できるようになってきました。

泌尿器科と聞いてどのようなイメージを抱きますか？

泌尿器科はマイナー外科というカテゴリーで括られることが多いのですが、診療分野は泌尿器癌、腎移植、排尿障害、結石、尿路感染症、小児泌尿器、メンズヘルスなど非常に幅広く、ロボット手術や

泌尿器科を志した理由

私が泌尿器科を志した理由の一つにということ「自分で診断し、手術できる」が挙げられます。多くの外科系の科は、内科で診断されたのち手術のために紹介されるとい

うケースが一般的ですが、泌尿器科では患者さんを初診時から術後まで一貫して診療することがほとんどです。実際、血尿を主訴に受診した患者さん

の膀胱癌を発見し、自分でTURBT（経尿道的膀胱腫瘍切除術）を行い、その後元気に退院されていく姿を見ると泌尿器科を選択して良かったと感じます（もちろん

私が泌尿器科を選んだ理由

新潟大学 風間 明

フクロアッパーの膀胱鏡検査も自分で行います。私が所属している新潟大学のような地方国立大学の泌尿器科は首都圏の大学とは異なり、泌尿器疾患を幅広くカバーする必要があります。私は泌

尿器科医になってまだ三年目ですが、大学と関連病院で研修する間、手術・薬物治療を含めた癌診療、腎移植、小児泌尿器疾患、尿路結石、外来で最もよく診る排尿障害など様々な症例を経験することができました。また、新潟大学泌尿器科では入局初年度には国際学会へ参加させてもらえるため、若いうちから国際学会の雰囲気を感じてモチベーションを高められる環境にあります。私自身、日

米の泌尿器科学会の合同シンポジウムに参加させていたいただき、英語でのプレゼンテーションや、各分野のエキスパートの先生と直接お話しさせていたなど、大変素晴らしい経験をすることができました。最後まで



診断から治療まで一貫して、患者さんを診ることができるのも、泌尿器科の魅力です。

読んで頂いた皆さん本当にありがとうございます。泌尿器科医は仕事でもオフタイムも面倒見のいい兄貴分、姉御肌の先生がそろっていると思いますので、泌尿器科に少しでも興味を抱いている人はぜひ近くの泌尿器科医に声をかけてみてください。皆さんと一緒に、日本の泌尿器科医療を盛り上げていけることを楽しみにしています。

富田善彦教授からのメッセージ



そうですね、泌尿器科の領域はとても広いですね。小児から成人、高齢者までを対象にしていますし、疾患の領域も、がん、結石、神経疾患、先天異常と非常に幅広いですね。

もう一つの特徴は、診断から治療までを一貫して行っているところですね。治療でも、手術療法、薬物療法を行っておりますし、放射線療法の一部は放射線治療の先生方と一緒にしています。

初期臨床研修終了後、まずは、最も多い泌尿器科疾患、前立腺肥大症、排尿障害、尿路結石、泌尿器科がんを中心として経験を積んでいきます。卒業、六年目くらいになると泌尿器科専門医を取得しますが、そのころから自分のサブスペシャリティ（専門）を決めていくことになりますね。

いろいろなものをみて、自分が一番興味を持つもの、やりたいもの、向いているものを選ぶことが多いようです。他の科と比較して選択の幅が広く、仕事をしばらくしてから専門を選べるのは良い点かもしれません。また、勤務医として活躍するだけでなく、開業してオフィス・ウロロジストとして活躍するキャリアパスもありますから、自分のライフスタイルに合わせてやすいともいえるのではないのでしょうか。泌尿器科医を、ぜひ、将来の選択肢として考えてもらいたいですね。